No.4　横須賀市立常葉中学校

【学校教育目標】
共に学び、共に喜び、共に誇れる常葉中学校を築く

学校だより

令和元年6月3日
発行　校長　佐藤昌俊

仲間と「共に」、絆を深めた1泊2日…

2学年キャンプ in 足柄ふれあいの村

５月 20 日（月）から１泊２日の日程で、２年生のキャンプが行われました。時折雨が激しく降るようなあいにくの天候で、靴や靴下がビッショリになってしまうなどの苦労がありましたが、予定されていたプログラムは大きく変更せずに済み、たくさんの体験をして帰ってくることができました。

１日目のスタートはウォークラリーから。コマ地図を頼りに１時間半ほど歩きました。コースの一部である大雄山最乗寺では、本堂のある境内からさらに 200 段以上の階段を上った「奥の院」が折り返し地点。頭脳も体力もフルに使ってふれあいの村まで戻ってきました。

入村式を終えてからは、夕食のカレーづくり。野外炊事は１年生の時に経験がありますが、今回は「火おこし」から体験しました。木材とロープを用いて摩擦熱を発生させ、ほぐした麻ひもから発火すれば成功なのですが、かまどに着火できるほどの火を手に入れることは容易ではありません。何度もチャレンジし、ようやく火を手に入れた班からは、大きな歓声が上がっていました。

夕食の片づけをしている頃から雨あしが強まり、キャンプファイヤーは屋内施設でのキャンドルファイヤーに変更して行いました。学年全員でろうそくの明かりを囲み、各クラスがこの日のために準備してきた出し物を披露しあうなど、楽しいひと時を過ごしました。

２日目は朝からどしゃ降りだったため、施設間の移動を極力少なくするなど、行程を調整しました。この日のメインは「プロジェクト足柄アドベンチャー（ＰＡＡ21)」。各クラスが 15～16 名ずつの２グループに分かれ、ファシリテーターの方の指示で様々なアクティビティーを体験します。屋内でしたが、緊張を解く体験から始まり、信頼関係を構築する体験や人間関係を円滑にする体験、問題解決の体験など多くのアクティビティーをこなしました。そして最後には、それぞれの「理想のクラス像」を書き出し、学級全員で共有しました。

家族や友人などと一緒にでかけるキャンプとは違った、大勢の仲間とともに過ごすからこそ得られる感動や体験が詰まった１泊２日でした。

※鈴木教頭先生が引率しましたので、今回は教頭先生に執筆してもらいました。

ふれあい体験旅行　人・自然・文化・食・・・・と

５月 20 日から 22 日に、２泊３日で新潟県阿賀町に「ふれあい体験旅行」に行ってまいりました。東北自動車道、磐越自動車道を通り、福島県の県境に隣接している阿賀町が生徒たちがお世話になった地域です。

初日はまずは阿賀町への移動です。６時間たっぷりとバスの中でのレクレーションです。思考凝らしたゲーム、カラオケなどなどをしてバス旅を楽しんでいました。

津川 IC を降りるとすぐに、「常葉中学校の皆様　ようこそ阿賀町に」の横断幕がお出迎えです。町をあげての歓迎に生徒たちの心も動かされます。お昼は阿賀野川の広い河原でお弁当をいただきました。横須賀では見られない景色の中での食事、その後は恒例の石投げです。昼食後、阿賀町の公民館に向かい、お世話になる民家の方の出迎えを受けました。予定より 30 分も遅れての到着となりましたが、皆さん笑顔で迎えていただき、生徒たちの緊張も少し解けたようでした。初日の午後から二日目がふれあい旅行のメイン、民泊体験です。体験の内容は様々です。農業体験も、畑に獣対策用のネットを張ったり、畑を耕したり、えごまの種植えや野菜の苗植えなどなど。山に山菜を取りに行ったり、畑に行ってニラを収穫したりして、おかずの材料も自分たちで調達します。山菜の天ぷら、取ったばかりのニラを使ったぎょうざ、ちまき、そして愛情たっぷりの郷土料理など、生徒たちの話を聞くだけで、お腹が鳴ってきそうでした。

最終日のメインは全員での田植えです。私も一年ぶりに田んぼに足を入れ、田植えを生徒と共にやってきました。お米の貴重さを実感できる体験です。

民家では阿賀町の文化や歴史のお話を聞いた生徒たちも多くいました。横須賀にはない豊かな自然とそこに暮らす人々、食一つとっても初めての経験をした生徒たちは、体だけでなく、五感を働かせ、心を動かし、本当に多くのことに触れ、学んできたようでした。帰りバスの中での感想の一つに、この旅行を通して「命」を感じたと強く述べている生徒がいました。また横須賀とは違う様々なことに触れ、見分を広げる大切を述べている生徒もいました。

いつもの仲間と共に、泊を伴った体験は生徒一人一人に多くの学びをもたらしたようです。様々な場面で生徒の成長を見ることができたとても嬉しく充実した３日間でした。